

外国人職員の育成と 認知症BPSDケアについて



HOUYUKAI

社会福祉法人 奉優会

特別養護老人ホーム 等々力の家・下馬の家

施設長 石井りな

1. 施設の紹介



2022年3月1日現在	
開所年月	2001年4月（今年度20周年を迎える）
事業	<ul style="list-style-type: none"> ●特別養護老人ホーム 定員60名 ●ショートステイ 定員12名 ●デイサービス 定員43名 ●居宅介護支援事業所 ●訪問介護 ☆2018年7月～等々力の家のサテライト施設として、地域密着型特別養護老人ホーム下馬の家（定員29名）の運営開始
特養の概要	従来型特養 4人部屋11室／2人部屋3室／従来型個室10室
	入居者 平均要介護度 4.4 平均年齢 91.3才（最高齢109才） 男女比 女性53名・男性7名

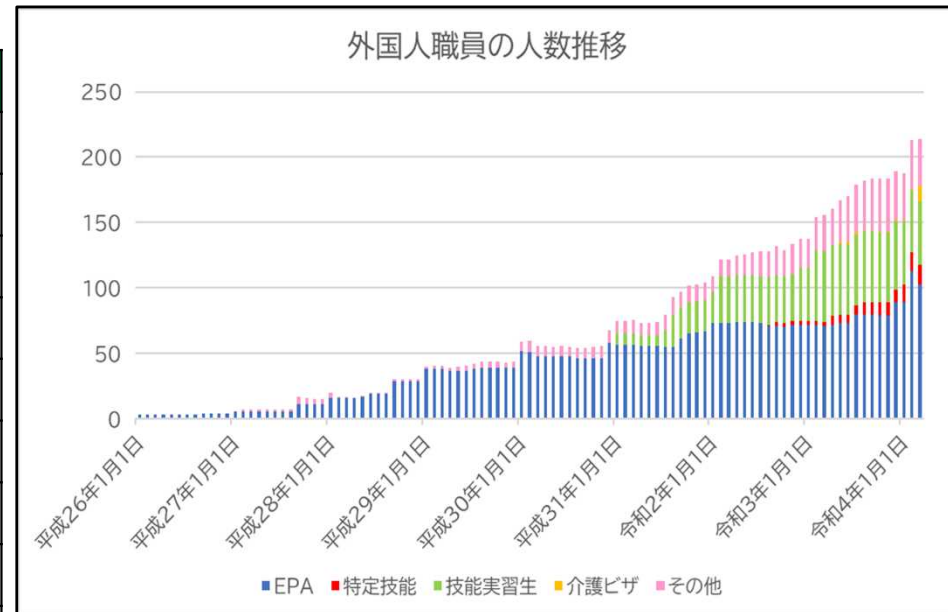
2. 外国人職員の受け入れ①（法人全体）

●法人全体【国別人数】

国別	人数
インドネシア	138
ベトナム	28
タイ	18
中国	9
フィリピン	8
韓国	6
朝鮮	1
インド	1
ブラジル	1
ネパール	1
スペイン	1
オーストラリア	1
シンガポール	1
合計	214

●法人全体【在留資格別職種】

在留資格・職種	人数
EPA介護福祉士候補生	72
EPA介護福祉士	23
介護ビザ / 介護職	12
EPA正看護師・准看護師	8
医療ビザ / 看護師	1
技能実習生 / 介護職	48
特定技能実習生 / 介護職	15
家族滞在 / 介護職	1
留学生 / 介護職	2
その他	
ケアマネージャー職	1
運転手	2
介護職	21
看護職	1
事務職	3
清掃	1
福祉職	3
合計	214



2022年3月1日現在、法人在籍職員**2138**名
そのうち**214**名、およそ1割が外国人職員



3. 外国人職員の受け入れ②（等々力の家）

等々力の家 外国人職員との歩み

■2015年12月

EPA介護福祉士候補生 5名（インドネシア）
の受け入れからスタート

■EPA候補生（インドネシア・ベトナム）、
EPA介護福祉士・看護師、技能実習生、
学生（フィリピン）など。

⇒延べ31名を受け入れ **現在18名が在籍**



【介護職】

EPA介護福祉士
3名（介護ビザ）

EPA介護福祉士候補生
6名

特定技能実習生
1名

技能実習生
2名

家族滞在
2名

留学生
2名

【看護職】

EPA看護師
1名（医療ビザ）

EPA准看護師
1名



多様性を力に



3. 外国人職員の育成① 4つのサポート

学習支援

- 月24時間、勉強時間として認めている。
- EPA・技能実習PJによる勉強会の開催
- 通学・訪問授業（コロナ禍ZOOM授業）
- 自宅学習の支援
- 事例研究発表会、せたがや福社区民学会等へ参加



就労環境

- 入職直後は、生活や就労に慣れることを優先的に支援
- 日本人同様、新任職員向け研修の実施
- 6か月後より夜勤勤務開始
- ラマダンの時期に、入浴介助の担当の軽減などシフト配慮



日本人との関係構築

- 宗教によって、お祈りの時間・曜日、ハラルフード、ジルバブへの理解など
- 職員同士交流会の開催
プライベートでも仲良く信頼関係の構築



日常生活面

- 住まいを整える（法人事務局との連携）
- ごみの出し方、ドアに鍵をかけるなど。
- インドネシアの季節は2つ（夏と雨季）、日本の四季との違い
- 銀行口座やWi-Fiなど



4. 外国人職員の育成② 変化とこれから

業務について

- ◇研修体制を整えることで、外国人職員だけではなく、新入職員にも働きやすい環境になった。
- ◇マニュアルや研修資料など、言葉のわかりやすさ、ふりかな表記等。
- ◇ICT・IOT化がすすみ、業務効率の向上、データ分析力がついてきた。

人間関係について

- ◇配属当初はコミュニケーションを意識。
- ◇業務を通して、お互いの文化を理解。
- ◇自然に近づき、年の近い職員と遊びに行く等和やかな空気に。
- ◇国籍の違いは感じられず、共通の「日本語」でのコミュニケーション

日本の介護ケアについて

- ◇ご利用者の自立支援、残存機能を活かす、ボディメカニクスなど介護の技術だけでなく、日本の介護ケアへの理解をさらに深めることが課題
- ◇言葉について、伝えきれないものの存在はある。日本人職員でも同じ。

外国人職員をきっかけに始めたこと・外国人職員の持ち込んだ変化が、業務・職場環境の変革につながり、新たな価値が生まれている

相互理解、共生の実現

【職員定着率】 '18年94.8% '19年93.1% '20年94.6%
今年度2月末日現在 介護職、看護職定着率95%以上の見込み

- ◆介護・医療の資格取得
- ◆キャリアアップ（チームリーダー、他の仕事へのチャレンジ）
- ◆日本での暮らしの継続（結婚、出産、子育てなど）



5. 外国人職員と認知症ケア

参考：統計局・厚生労働省ホームページ、「高齢社会白書」

	日本	インドネシア	ベトナム	フィリピン
総人口	1億2555万9千人	2億7352万4千人	9733万人9千人	1億958万1千人
65歳以上 高齢人口割合	29.1% (世界1位!)	6.1%	7.7%	5.3%
平均寿命	女性 87.74歳 男性 81.64歳	71.9歳	75.5歳	71.4歳

日本では2012年認知症患者数が約462万人（15%）から推計すると
2025年には、約700万人（20%）
 高齢者の「5人に1人」が認知症になると言われている

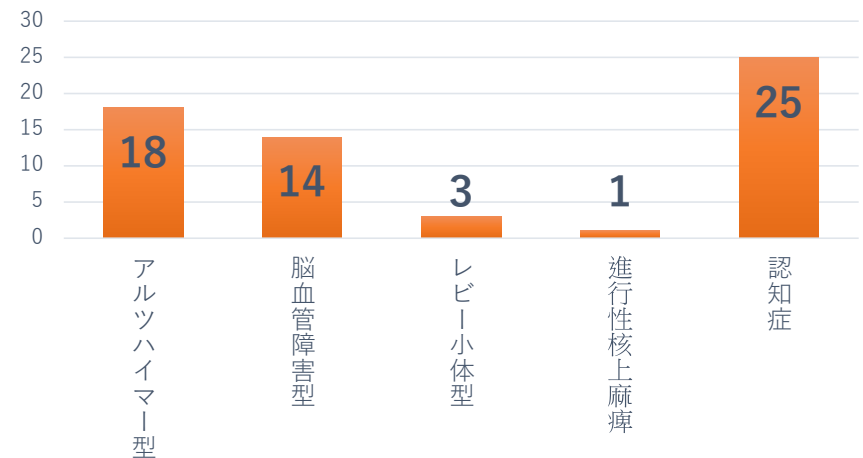


【外国人職員】

- ・母国では、80才、90才、100歳の高齢者に会う機会が少ない。
- ・日本に来て、認知症の高齢者に「はじめて会った」という職員が多い。
 ⇒核家族化の進む日本において、日本人職員も同様

認知症の種類

等々力の家入居者（定員60名）



7. 認知症ケア 事例

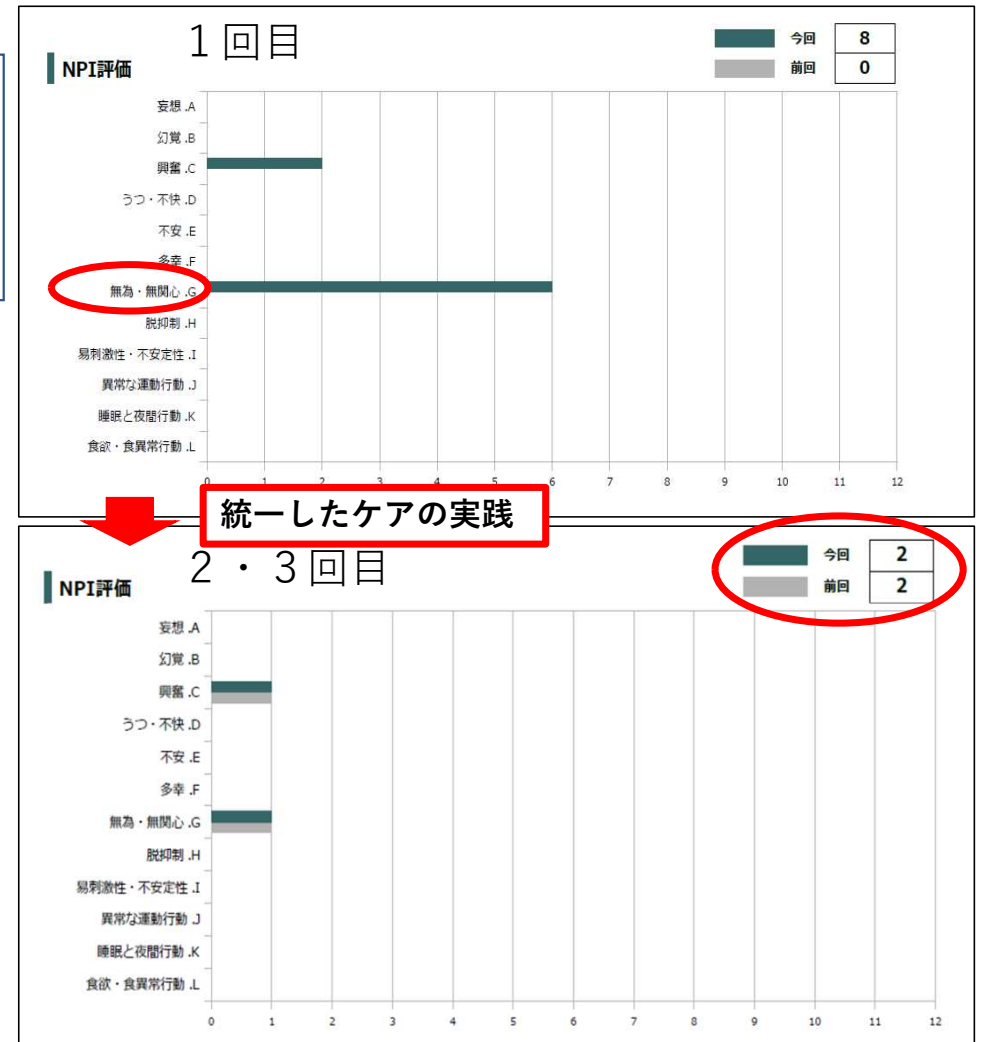
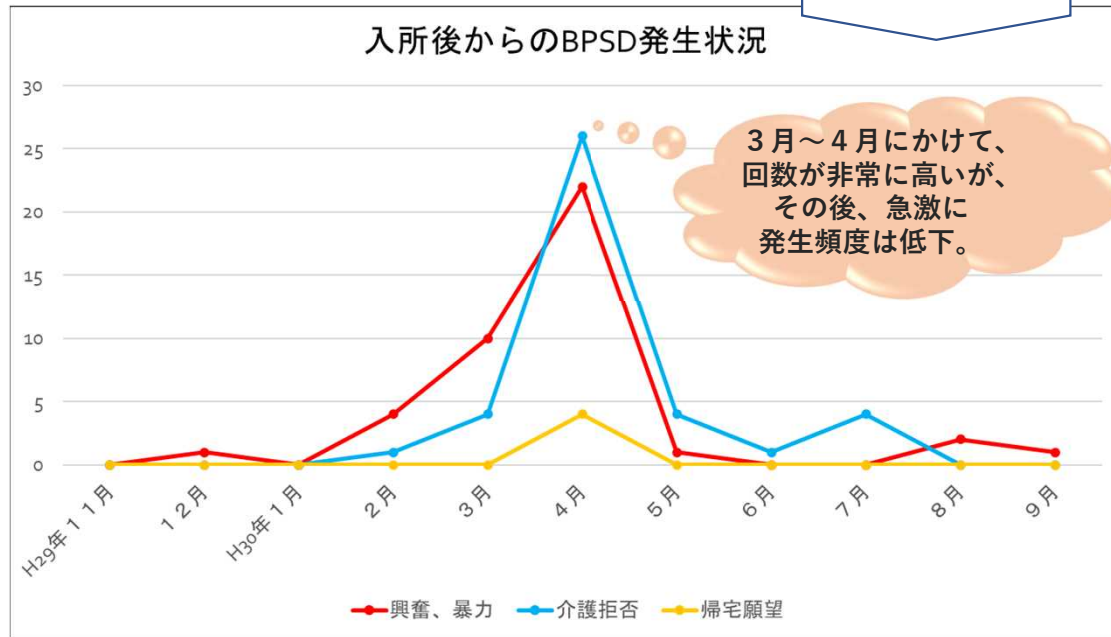
【A様】

年齢	88歳
要介護度	4
認知症の種類	アルツハイマー型

【主な行動心理症状】

- ・興奮、暴言、怒鳴る
- ・たたく、杖を振り回す
- ・介護拒否
- ・帰宅願望

急激な変化



8. 認知症ケア 背景要因をさぐり、根拠あるケアの実践

◆多様な人材（ダイバーシティー）
新人、ベテラン、国籍、性別、年齢、資格の有無など
= 多様な視点
多彩なアイデアがある



ケアのばらつきが生まれやすい

認知症ケア = チームケア
統一したケアの実践にむけて

ユマニチュード×日本版BPSDケアプログラム

背景要因を探り
困りごとの根拠を見つける

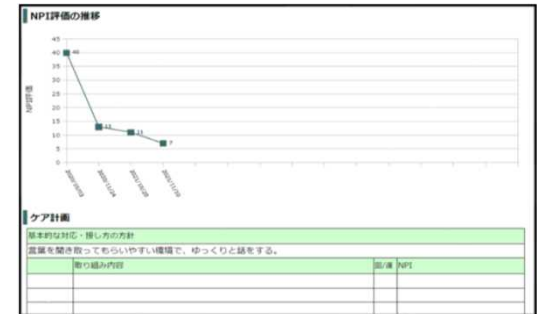
データ分析
アセスメントの高度化

多職種で話し合い視点を統一
統一したケアの実践・継続

何となく感じる変化を
数値で可視化し、
効果を実感

利用者の穏やかな笑顔
家族の笑顔にもつながる

職員のモチベーションアップ
認知症にかかわる職員の
介護力アップ



ゆっくりと傾聴、
気持ちに寄り添う



認知症研修



多職種連携（特養）
サービス担当者会議



多様な視点・アイデアを活かす



ショートステイ・在宅ケア
特養・デイ・居宅・訪問介護連携

ご清聴ありがとうございました

